

図9-15 “グルゲアシスト”の組織学像とその崩壊。

図9 幽門垂間に存在する“グルゲアシスト”の最も一般的な像。中央部に成熟または未熟な孢子嚢（S），周縁部にスポロゴニーが進行しているスポロゴニー胞（SV）やシズント，宿主細胞核および細胞質よりなる層（孢子形成層），PAS染色陽性，エオシン好性膜（PF），および宿主由来の結合組織の層（CT）より成る。ブアン氏液固定，PAS染色。

図10 酢酸カルシュームホルマリン液で固定し，PAS染色を施した“シスト”。PAS陽性膜が繊維状の重層構造を有していることがわかる。

図11 軀幹筋肉組織内に形成された“シスト”。筋肉組織は“シスト”により圧迫されているが，宿主反応は乏しい。ブアン氏液固定，PAS染色。

図12 血管内に形成された“シスト”。それに接する組織に宿主反応はまったく認められない。ブアン氏液固定，ヘマトキシリン・エオシン染色。

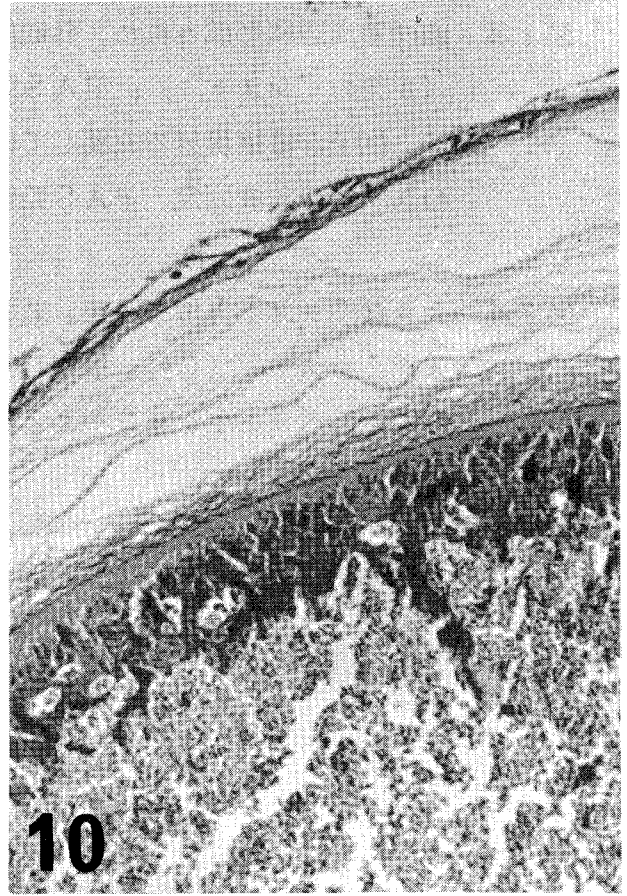
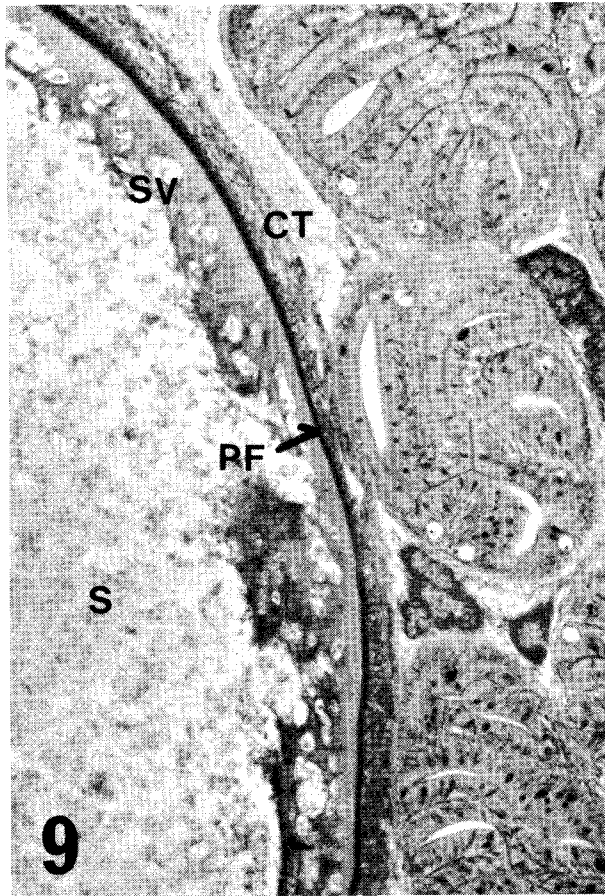


図13 幽門垂周辺に形成された、外観的に黄白色を呈し、弾力性のある“シスト”（左側の“シスト”）。PAS陽性膜ならびに孢子形成層は消失し、内部には、孢子が濃縮状態で充満している。右側のシストは図9と同様の時期のもの。ブアン氏液固定，PAS染色。

図14 大きな“シスト”塊の一部。若い“シスト”（A），中期の“シスト”（B），末期“シスト”（C），崩壊した“シスト”（D）が認められる。ブアン氏液固定，ヘマトキシリン・エオシン染色。

図15 崩壊しつつある“シスト”。周囲に形成された結合組織内に孢子が散在している。

